

令和元年度 第2回学校運営協議会議事

日時：令和元年10月5日（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【 委 員 】 添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、樫本佳子、田中未知

【校長・事務局】 岡崎守夫、山脇和美、門野良彦、本管克江、森登紀子、森佳希、
藪麻智子、都浩司

- 1 校長挨拶
- 2 議 事
 - ① 本年度の各取組みについて（中間報告）
 - ② 教科書選定の結果について
 - ③ 質疑応答
 - ④ 次回協議会日程

<校長挨拶>

本日は、約半年間の今年度の取組みについて、ご報告させていただき、ご意見、ご助言をいただきたいと思っております。

<本年度の各取組みについて（中間報告）>

1 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築

(1) 「グローバル」に視点を置いた取組み

①73期生宿泊野外行事の報告

今年度の行き先はカンボジア（シェムリアップ）であった。前日に吹田の事件があり、実施が危ぶまれたが、無事予定通り出発できた。この行事を通じて、本物にふれ、さまざまな充実した取組みを体験することができた。2年生は後期に課題研究に取り組むことになるが、この宿泊野外行事で学んだことをテーマに研究するグループも出てくるのではないかと思う。

高校生の修学旅行の行き先として、カンボジアというのは他に例がないものであったようだが、昨年度、行き先を決める際の行事委員のプレゼンテーションで、カンボジア担当の生徒たちの「君たちはなぜ茨高に来たのですか。73期で新しいことをやりませんか。」という言葉がとても印象に残っている。

②長期留学生の受入れ

今年度はモンゴルからの留学生を受け入れた。本人の都合で4月から7月までと、例年よりは短い期間であったが、留学生、本校生徒双方にとって、貴重な体験になった。

③海外研修等への参加

今年度から、始業式や全校集会等で「学びの報告会」として、海外研修等に参加した生徒が自分の学びの体験を全校生徒に報告する機会を設けている。それが、報告を聞いた生徒たちにとって良い刺激となり、ベラルーシ共和国、アメリカ合衆国、オーストラリア、カナダ、イギリス等、さまざまな海外研修プログラムに積極的に応募している。

④B & Sプログラム ⑤英語イマージョンプログラム については現在準備を進めている。

(2)「高い志」を涵養し持続させるための取組み

①学問発見講座・卒業生講座

学問発見講座は7月13日(土)に実施。本校卒業生を含め14名の講師に80分の講義をしていただき、生徒たちの学問に対する興味・関心を育て、視野を広げる機会とした。

卒業生講座は、10月12日(土)に実施予定。

②73期生オータムセミナー

「北辰プロジェクト」の中で二つ目の分水嶺として位置付けられている。今年度も10月7日(月)に九州大学大学院農学研究院の石野 良純教授を講師としてお迎えし、2年生への講演を予定している。

③74期生スプリングセミナー

「北辰プロジェクト」の中で一つ目の分水嶺として位置付けられている。5月11日(土)京都大学吉田キャンパスで実施した。午前は、京都大学大学院薬学研究科の高倉 喜信教授の記念講演、午後は京都大学の学生(本校卒業生)との交流を含むグループワーク及び討論。

④高大連携

今年度も、さまざまな高大連携事業に取り組んでいるが、「東京スタディツアー」について、訪問先として、今年度は東京大学駒場キャンパスの「コンピュータビジョン 佐藤洋一研究室」を加え、見学させていただいた。高大連携事業については、現段階ではまだまだ進行中の取組みもあるので、次回以降に報告させていただく。

2 「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築

3 「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築

(1)「二兎を追うたくましさ」の育成とリーダーの育成

①リーダー育成プログラムⅠ

クラブ代表者を育成することにより、部活動の活性化とレベル向上をはかり、高い志の涵養に取り組む姿勢を育むプログラムである。全12回を予定しており、そのうちの3回は外部講師を招いての講演を予定している。1回目は7月17日に実施。中には3年続けて講演を聴いた生徒もいるが、毎回得るものが多い、との感想を述べていた。2回目は10月4日に実施したが、講演後の質疑応答は時間を延長しなくてはならないほど活気にあふれたものであった。

②リーダー育成プログラムⅢ

「クラブサポート」事業として、理学療法士から各運動部員に対して指導していただく取組み。今年度はこれまでに6回実施し、参加生徒は607名。

(2)「二兎を追うたくましさ」の育成と「自主自律の精神」の育成

①リーダー育成プログラムⅡ(地域と連携した活動)

地域と連携した活動等への参加を推奨し、地域とつながるこころ、自主自律の精神の育成をめざす取組みである。今年度、夏休み明けまでの期間について調査したところ、部活動等

のグループで取り組んだもの、個人的に取り組んだもの、生徒たちは実にさまざまな活動に取り組んでいたことがわかる。活動を通して、自分たちの持っている知識や能力をアウトプットする経験を積んでいってほしい。

②豊かな感性を育むプログラム

今年度も、芸術の授業で取り組んだ成果の発表を予定している。美術科・書道科は令和 2 年 2 月 15 日（土）・17 日（月）・18 日（火）に本校多目的ホールにて作品展示。音楽科は令和 2 年 3 月 6 日（金）立命館大学フューチャープラザ グランドホールにて音楽会を予定している。

4 教員の授業力向上のためのシステムの構築

7 月に今年度第 1 回授業アンケートを実施した。第 2 回は 12 月に実施予定。

<質疑応答>

委員：報告の中で出てきた「IBA I」とはどういう科目か。

事務局：学校設定科目の「IBARAMA I」で、「情報」の内容に加え、プログラミングや課題研究につながる情報処理等を学ぶ内容になっている。

委員：74 期生の「北辰プロジェクト」が示されているが、「スプリングセミナー」と「オータムセミナー」を分水嶺として 3 年間の指導を展開していくスタイルを始めてからかなり経っている。マンネリ化するというのも懸念されるが、これからの展望を聞かせてほしい。

事務局：北辰プロジェクトについては、まさにご指摘のあったような視点でとらえていく時期にきている。これまでも、毎年、細かな点についてはより良いものにするため改良を加えてきてはいるのだが、一連の流れが定着し、いわば空気のような時点で、さらに内容を検討し、全体を見つめ直していきたい。

委員：このように 3 年間を見通したカリキュラムのある学校は多いのか。

事務局：あるほうが少ないのではないかと。

委員：このように、3 年間を見通したカリキュラムを明示することで、指導する教員の「目線」を合わせるにはたいへんよいシステムだと考える。

委員：大学訪問等の取組みでは、理系分野への進路指導に力点を置いているように感じる。現在、ロボットや I T 技術に早期から触れていく STEM 教育に、Art を加えた STEAM 教育という考え方がある。2040 年に向けての高等教育グランドデザインや Society5.0 においても、人間が大事である、人間がどうするのが大切である、とされている。茨高でのさまざまな体験がこれからのリーダーを育てるのではないかと考えるが、今後の進路指導はどのように考えているのか。

事務局：文系・理系という考え方が既に古く、どちらもおろそかにできないものだと考えている。生徒達には、「今何が必要か」を決めて「何かに取り組む」のではなく、視野を広く持ち、「何かに取り組む」中で「必要なもの」を取り入れていってほしい。

事務局：東京スタディツアーの東京久敬会のみなさんとの交流時の感想を見ても、生徒たちが「人のつながり」を実感したことがわかる。また本校は、3 年次もクラスの構成は文理混合である。さまざまな科目を選択しているクラスメートの中での学びが、生徒た

ちの将来の役に立つのではないかと思われる。

委員：次の学習指導要領でも「多様性」がキーワードとなっており、それにつながるものではないか。

委員：地域と連携した活動では、生徒たちが自分の活動と地域がつながっているという実感を持つことが大切である。そのためには生徒たちの中から湧き上がってくる学びをすくい取る必要がある。多くの活動の中で、生徒たちの中から湧き上がってきた活動はあるのか。

事務局：たとえば、竹灯籠プロジェクト、レゴワークショップがそうである。体育祭のマスコットで使用した竹の再利用、小中学生とともにレゴブロックで理想のまちをつくるという取り組みである。

委員：地域と連携した活動を生徒たちにさせるにあたっての指導はどのようにしているのか。

事務局：生徒ができることはとにかく生徒にさせるようにしている。たとえば、サッカー指導であれば、どのように指導するのか生徒に指導案を書かせ、実際に模擬指導をさせることもしている。また、ボランティアサークルの存在も、生徒たちの多様な活動を支えるものとなっている。

委員：振り返ってみると、自分自身、高校時代が一番楽しかったという感慨がある。茨高にはたくさんのメニューがあるが、生徒たちがそれぞれ何か一つおもしろいものを見つかけられるとよいと思う。後々さまざまな分野で頭角を現す人物も出てくる。高校時代の経験が生きてくると思う。

委員：現在、小学校の教科書は、たいへん変化してきているが、高校ではどうなのか。また、使用教科書一覧表によると英語については同じものを継続して採択する方針なのか。

事務局：生徒たちにとって一番良いものを選んだ結果、同じ教科書になる、ということはある。同じ教科書が続いても、教科書を教えるのではなく、教科書で教えるという方針なので、生徒たちの実状に合わせて最適な授業内容で指導していける。

委員：世界史の教科書の英語版も出版されている。そういったものも、推薦しておけば読んでみようと思う生徒もでてくるのではないか。

委員：購入しても授業中にあまり使用しない教科書があるように聞くと、そのような場合でも教科書は必要なのか。

事務局：理科では、授業ではプリント等での説明や演習が多いが、教科書は辞書的に、授業で習ったことを確認したり、特に自分が気になったところを復習したりする際に役立つよう、生徒にも指導している。

事務局：数学では、教科書を選ぶ際、生徒がその単元の説明を初めて見て理解できるかどうか、という点を重視している。つまり、教科書は予習に使用し、授業ではそれをもとに発展的な内容を扱うということになる。

事務局：保健体育の場合は、保健であれ体育実技であれ、授業で習ったことはすべて教科書に書いてあることが確かめられる。したがって、小論文等を書く際の資料としても活用できる。

<教科書選定の結果について>

本日、次年度使用予定の教科書を展示していますので、どうぞご覧ください。

<次回協議会日程>

令和2年2月15日 14:00~16:00 場所:本校校長室